



# 白浜へ野外理科実習に行ってきました！！

2010. 8. 9～10

## 磯採集



潮の引いた磯場で海藻や魚を採集しています。潮が引いているのに水たまりができていところを『潮だまり』といいます。浅瀬の方が光が良く当たるので光合成が盛んになります。このことから潮間帯（潮汐によって海水面が下がることによって空気中に出る部分）には特に多様な生物が生息しています。



磯場の穴の中や、磯場の影にはウニがいました。採集を試みましたが、ウニの抵抗にあい断念

## 磯の仲間たちはどこかな



今回の野外理科実習で  
採集した海藻は、  
標本にしました。

## 近畿大学水産研究所での講義・見学



近畿大学水産研究所は1948年に白浜臨海研究所として開設されました。

1954年から網いけす式養殖法の研究に着手し、産業化を実現。現在のわが国では、この方式が海産魚養殖の主流であり、世界へも普及しています。

1965年には、世界で初めてヒラメの種苗生産に成功し、現在までに18種の種苗生産を世界で初めて達成しました。

2002年には念願のクロマグロの完全養殖に世界で初めて成功しました。さらには、選抜や交雑による優良品種の開発にも成果を

挙げています。また、新たなテーマとして、富山実験場における日本海特有の魚類の種苗生産や深層水を利用した増殖、暖海性魚類の種苗生産などにも取り組んでいます。

《近畿大学水産研究所パンフレットより》



写真中央に写っている魚は水産研究所で  
23年間養成されたクロマグロの剥製で  
す。

**体長253センチメートル、  
体重214キログラム**

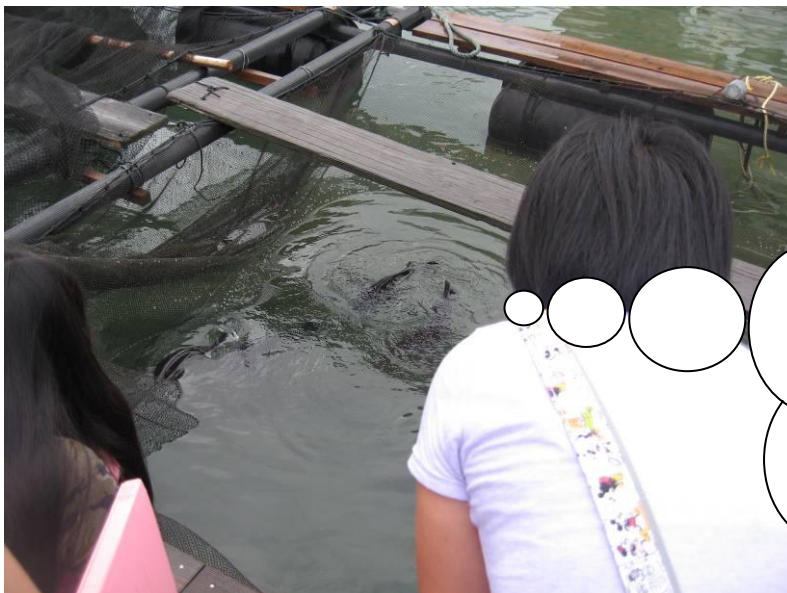
(天然物に比べるとやや小ぶりだそうで  
す)。

## 養殖いけすの見学





マダイのいけす  
マダイは日に焼けて色が黒くなると商品価値が下がってしまうため、いけすの上に黒いシートをかけて養殖します。



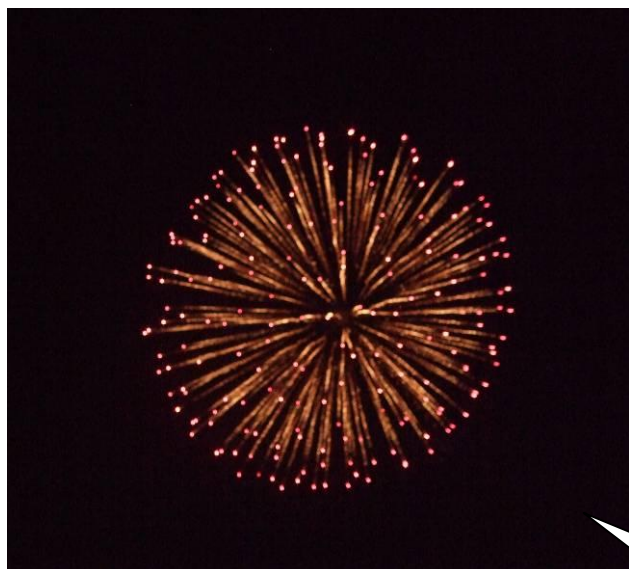
高級魚のクエです  
クエは水温が20度以下になると成長が遅くなるため、白浜近海の水温が20度を下回る季節には奄美大島の実験場へ移送され養殖されるんだそうです。  
近大のおかげで白浜では年中クエを食べることができます。

天候が悪く、あいにくの曇り空となり夜に予定していた、天体観測は行うことができませんでした。(残念!!!)

# おまけ

実習初日の夜、白浜では花火の打ち上げがありました。大変きれいな花火でした。

花火を見ながらもお勉強・・・



色とりどりで大変きれいな花火ですが、その色は  
**炎色反応**という現象を利用しています。

炎色反応とは金属塩を炎の中に入れて強熱することによって、炎に金属特有の色がつく現象です。混ぜ合わせる金属の種類によってさまざまな色合いを呈することができるのです。

炎色反応を呈する金属とその色

金属	色	金属	色
リチウム	深紅色	ストロンチウム	深赤色
ナトリウム	黄色	バリウム	黄緑色
カリウム	淡紫色	銅	青緑色
カルシウム	橙赤色	ホウ素	黄緑色